

希望を胸に 新しい学校生活がスタート

城南高等学校と西宇治高等学校では、両校の伝統や校風を継承し、新しい時代の教育を創造する城南菱創高等学校として平成21年4月の開校を前に、確かな歴史を刻みました。

また、八幡市立八幡小学校及び八幡市立さくら小学校では、統合校として新しい学校の歴史を歩みだしました。



城南高等学校



西宇治高等学校



八幡小学校

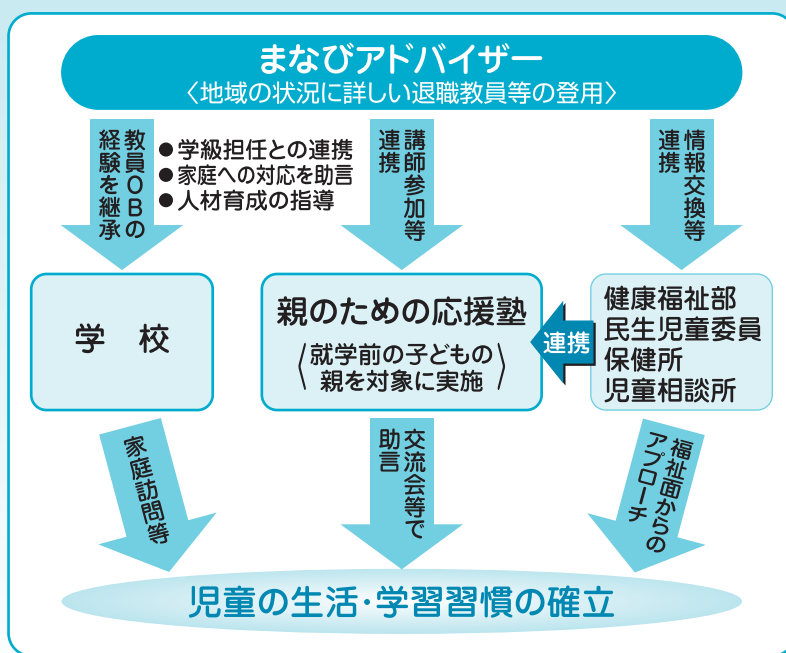


さくら小学校

子どもたちの生活・学習習慣の確立に向けて、家庭をしっかりとサポート！ まなびアドバイザーをさらに拡充

子どもたちに基礎学力を確実に身に付けさせるためには、規則正しい生活を送りながら、自ら進んで学習に取り組むなど、家庭における習慣づくりが大変重要です。

しかし、近年、家庭を取り巻く環境が大きく変化する中で、子どもに十分に関わることができない、あるいは、関わり方がわからないなど、子どものしつけや教育に不安を抱える家庭が数多くあることから、学校を拠点として、地域の民生児童委員などの福祉関係機関とも連携しながら家庭を支援する「スクールソーシャルワーク」という考え方が大変重要になっています。



京都府教育委員会では、このような考え方のもとで、子どもたちに小学校の早い段階から生活・学習習慣がしっかりと身に付くよう、学校と家庭の橋渡し役を担う「まなびアドバイザー」や小学校就学前の子どもを持つ親を支援する「親のための応援塾」を平成19年度から導入しています。

今年度は、まなびアドバイザー配置校を、小学校10校から15校に拡充するとともに、これらの取組を通して得たノウハウを広く他校にも普及させるなど、子どもたちの生活・学習習慣の確立・定着に向けた取組を積極的にすすめていきます。



大橋 通夫 京都府教育委員会委員長が就任

大橋通夫京都府教育委員会委員長は、長年、幼児教育を通じて、子どもたちに対する深い教育的愛情を持たれた教育者として平成16年6月に京都府教育委員に就任し、平成20年3月26日付けで、第64代京都府教育委員会委員長に就任しました。



「あったらいいな、環境学習教材・教具」の開発

乙訓教育局

乙訓教育局の教育振興プロジェクトの一つである「京都環きょうみらい会議」は、企業やNPOと連携しつつ環境学習に役立つ指導資料や教材・教具の開発に取り組んでいます。

地球温暖化が人類の直面する深刻な問題との認識が高まる中、環境教育を大切に、環境学習を通して、「生きる力」を培うことをテーマに「環境学習ガイド」（小学校編、中学校編）や「環境学習ワークシート」（小学校編）を作成してきました。平成19年度はそれらのガイドを活用した効果的な指導ができるよう「あったらいいな、環境学習教材・教具」の開発を行いました。プロジェクトの教員メンバーや理科支援員などからアイデアを募り、日本理科教育振興協会や企業の協力を得て教具の試作に至りました。

現在、「エネルギー変換装置」と「フードマイレージ紙芝居」の試作教具を使った授業を複数の小・中学校で実践しながら、教具の実用化に努めているところです。



授業改善に熱心に取り組む教員9名を表彰

南丹教育局

日々の授業改善に熱心に取り組むなど優れた教育を実践した教員を表彰する「南丹授業改善推進表彰」の受賞者9名を、2月21日に南丹市日吉町生涯学習センターにおいて表彰しました。

この表彰は、優れた模範授業を多くの教員に公開する学力ぐんぐんバンク事業などを進めてきた南丹教育局が、管内市町教育委員会と連携して、教員の授業改善への意欲を高めることを目的に初めて実施したものです。

当日は、南丹教育局長及び南丹教育委員会連絡協議会長からの表彰状が授与ののち、受賞者代表から実践発表がありました。



シリーズ

人権

そろいました!! 人権学習資料集

京都府教育委員会では、人権学習に活用する資料集を作成しています。各学校における人権学習において使用するほか、教職員の研修などにも活用していく予定です。

- 平成17年度<小学校編 I> (CD付)
 - 平成18年度<小学校編 II> (DVD付)
 - 平成19年度<小学校編 III> (DVD・CD付)
- 今後、中学校や高等学校用についても作成の予定です。



身近なことから気づいたり...

じっくりと考えたり...

体験的な活動をしたり...

★人権をいろいろな視点から学習していきます★

京都府高校生等修学支援事業について

京都府では、経済的な理由で修学を断念することがないよう、高校生等修学支援事業を実施しています。

- 対象 高等学校などに在学の方、またはその保護者
※保護者などが府内に在住していること、世帯又は保護者の所得基準などの要件があります。
 - 高等学校等修学資金(修学金・修学支度金)貸与制度
受付：随時(申請日の翌月分からの貸与)
ただし、平成20年度新入生で、4月分からの貸与希望者は5月15日(木)まで(既に貸与予定決定を受けている方は4月30日(水)まで)
 - 修学支援特別融資利子補給制度
受付：5月15日(木)まで(定員あり)
 - 問い合わせ先 在学の高等学校または京都府教育庁高校教育課奨学担当 TEL 075-414-5856
- 修学支援事業の内容は、在学の高等学校に配付のパンフレットまたは京都府教育委員会のホームページでご覧いただけます。
(<http://www.kyoto-be.ne.jp/koukyou/>)

文化財 平成19年度 京都府選定文化的景観の選定

京都府文化財保護条例を一部改正し、平成20年3月21日付けで、初めて以下3件の「府文化的景観」の選定を行いました。

- 選定名称 京丹后市久美浜湾カキの養殖景観 (京丹后市)
- 福知山市毛原の棚田景観 (福知山市)
- 和束町の宇治茶の茶畑景観 (和束町)

文化的景観とは、「地域における人々の生活、生業、風土により形成された景観地で我が国民の生活、生業の理解に欠くことのできないもの」(文化財保護法第2条)のことです。

久美浜湾は日本海の内湾で、波の穏やかな格好の漁場を形成しています。湾内の4箇所に約300基のカキの養殖棚が漁業協同組合員の方々により敷設されています。養殖棚が列をなして湾内に浮かんでいる風景は、山陰海岸国立公園の区域内に含まれる美しい海面と付近の山々がおりなす自然景観とあいまって、丹後地域の冬を特徴づける文化的景観です。

福知山市大江町毛原には、大江山南麓に広がる険しい斜面を利用して現在は減少したものの約600枚の棚田が営まれています。平成11年には農林水産省の「日本の棚田百選」にも選ばれた府内の代表的な棚田です。



和束町は、お茶の生産に適した気候、風土から、府内有数の宇治茶の生産地となっており、生産量は府内最大です。町内各所には広範囲に茶畑が営まれ、山裾から山頂近くまで緩やかな起伏のある畝が無数に広がる風景は、南山城を代表する農業景観です。

文化的景観の保護は、生活・生業によって作り出される「固有」の地域文化や伝統・習慣等の次世代へ継承する文化財保護の観点とともに、生産品の「地域ブランド」化や文化観光の新しい施策を展開する上でも有効で、今後の保存と活用が望まれます。

ご相談ください

京都府教育委員会では、子どもの心身の成長や発達、いじめ、不登校、また保護者の方の子育てやしつけなどの悩みについて、電話、来所、巡回及びメールによる教育相談を行っています。

電話教育相談

ふれあい・すこやかテレフォン

■075-612-3268 又は 3301

毎日(24時間対応)

京都府総合教育センター(伏見区)

■0773-43-0390

毎日(24時間対応)

京都府総合教育センター北部研修所(綾部市)

来所・巡回教育相談

■月～金【祝日を除く】

上記の電話でお申し込みください。

臨床心理士又は精神科医などが直接会ってお話をうかがいます。

メール教育相談

■メールアドレス sukoyaka@kyoto-be.ne.jp

ご利用ください

京都府では、安心・安全な情報社会の実現を目指して、手軽に情報モラルに関連する情報を手に入れられることができるよう情報モラルポータルサイトを運営しています。

京都府情報モラルポータルサイト

<http://www.kyoto-be.ne.jp/kyomoral/>

平成20年度 教育委員会当初予算の概要

府民の教育に対する大きな関心と期待に応えるため、平成20年度当初予算では、子どもたちの確かな学力の向上、教員の子どもと向き合う時間の拡充や特別支援教育の充実などを施策の重点に据え、『「京の子ども、夢・未来」プラン21』に基づく教育改革を着実に推進するための経費を計上しています。

平成20年度教育委員会の予算総額は2,060億6,218万円で、京都府の予算総額の約4分の1を占めています。

A 学力の充実・向上と個性や能力の伸長を図る教育の推進

子どものための京都式少人数教育推進費 [79億937万円]

- ◆京の子ども・少人数教育推進(拡充) [70億4,848万円]
府内全ての小学校で、3年生から6年生について30人程度の学級編制が可能となるよう教員の配置を充実します。
- ◆小学校低学年指導充実 [7億6,499万円]
小学校1・2年生で、2人の教員による指導を行うための教員を配置します。
- ◆全中学1年生英数少人数教育実施 [9,590万円]
中学校1年生の英語・数学で少人数教育が実施できるよう教員を配置します。

特別支援教育充実事業費 [2億2,000万円]

LD(学習障害)、ADHD(注意欠陥・多動性障害)、高機能自閉症など特に支援を必要とする子どもたちを学校全体で支援する体制を充実するため、小・中学校を対象に100人の教員を配置します。

京の子ども学力充実総合推進事業費 [6,900万円]

- ◆「京の子ども、夢・未来校」の選定 [1,000万円]
優れた教材や指導方法の工夫、改善など、指定校において研究開発や実践研究を推進し、府内の学校へ成果を普及するとともに学力及び教員の指導力の向上を図ります。
- ◆理科支援員の配置等 [4,200万円]
小学校に「理科支援員」を配置し、実験の演示・体験活動などによる理科教育の活性化を図ります。

小・中学校社会人講師配置事業費 [835万円]

「京の子どもへ夢大使派遣事業」
多様な分野の専門家や著名人を小・中学校に派遣し、子どもたちの興味や関心を高め、学習意欲を一層高める授業を行います。

学習習慣確立支援事業費(拡充) [3,435万円]

家庭での子どもたちの生活や学習習慣の確立などを支援する「まなびアドバイザー」の配置を拡充し、家庭や地域社会との連携を強化します。

京のまなび教室推進事業費 [7,200万円]

小学校や公民館などを活用した「京のまなび教室」の開設を支援し、土曜日・放課後などにおける子どもたちの体験活動や学習活動を推進します。

府立高校「教育改革チャレンジプラン」支援事業費 [8,478万円]

生徒一人一人の確かな学力の向上と希望する進路の実現に向けて、府立高校が主体的に企画する取組を支援します。

◆「確かな学力」向上プラン [2,450万円]

府立高校が企画する学力充実・向上プログラムを「学力向上フロンティア校」として採択し、各学校の主体的な取組を支援します。

◆「豊かな未来」実現プラン [6,028万円]

学習合宿・進路補習や資格取得促進など希望進路の実現に向けた取組を支援するとともに、高校生の数学的資質能力の向上を図るため、数学コンテストを開催する。

職業教育充実事業費(新規) [400万円]

キャリア教育サポーターの派遣やインターンシップなどの体験活動の充実を図るなど、府立高校で将来を見通した勤労観・職業観をはぐくむ教育内容を充実します。

特別支援学校高等部就労支援事業費 [730万円]

ふれあい・心のステーションを実施するとともにハローワークなどと連携して、特別支援学校に在籍する生徒の就労を支援します。

特別支援学校・地域等連携推進事業費 [300万円]

地域の学校や医療、福祉、労働など関係機関と連携しながら、障害のある児童生徒や保護者に対する教育相談などを実施します。

B 豊かな人間性の育成と健康や体力の向上を図る教育の充実

心のサポート推進事業費 [2億8,792万円]

いじめや不登校などの課題に対応するための総合的なサポート体制の充実を図ります。

◆スクールカウンセラーの配置(拡充) [2億345万円]

中学・高校に配置しているスクールカウンセラーを新たに小学校にも配置(10校程度)し、助言・支援体制の充実を図ります。

◆心の居場所サポーターの配置 [2,015万円]

不登校の未然防止・早期解決を図るため、保健室などに登校する子どもたちの相談や学習支援を行うため「心の居場所サポーター」を配置します。

◆フリースクール連携推進(拡充) [200万円]

府教育委員会が認定したフリースクールが実施する学校と連携した教育活動を支援し、学校に登校できない子どもたちの社会的自立を目指します。

豊かな心を育てる教育推進事業費 [5,270万円]

◆豊かな心を育てる体験活動推進 [4,750万円]

府内全ての小・中学校で仕事探究・体験活動、職場体験活動などを実施し、豊かな人間性を育成します。

◆豊かな心を育てる読書活動推進 [520万円]

読書キャンペーンの実施や読書ボランティアの養成など、子どもたちの読書環境の充実を図ります。

運動部活動振興事業費(新規) [1,518万円]

中学・高校の運動部に地域のスポーツ指導者を派遣し、運動部活動の活性化を図ります。

ふるさと文化体験事業費(新規) [200万円]

小・中学生を対象に地域の埋蔵文化財などに関する体験活動を実施し、ふるさとへの愛着や誇りを持つ心を育成します。

C 府民の信頼を高める学校づくり

生まれ未来の教員サポート事業費(新規) [300万円]

京都府教員を志望する大学生を対象に「教師力養成講座」を開催するなど、優秀な教員の養成を図ります。

「教師力向上」地元パワー活用事業費 [1,200万円]

地元京都の大学・企業などと連携した質の高い研修を実施し、若手教員の教科指導力の向上やミドルリーダーの育成などを図ります。

退職教員教育サポートシステム

退職教員の豊富な経験と優れた能力を活かすための人材バンクを構築し、教員の人材育成や児童生徒への指導の充実などを図ります。

学校問題解決緊急支援事業費(新規) [1,200万円]

学校における重大事案や学校に対する理不尽な要求などに対応するため、学校支援アドバイザーの配置や緊急支援チームの創設に向けての研究を行うなど、学校を支援する体制を整備します。

府立学校再編整備事業費 [13億5,174万円]

宇治・城陽地区、八幡・久御山地区に特別支援学校を新設するための整備を進めます。

D 家庭・地域社会の教育力の向上

親のための応援塾開催事業費 [200万円]

小学校就学前の子どもを持つ親を対象に応援塾を開設し、家庭の教育力の向上を図ります。

一層の充実を図ります! 子どものための京都式少人数教育

義務教育9年間を見通し、児童生徒や学校の実態に即して必要な教員を配置し、一人一人の児童生徒に確かな学力を定着させます。

充実

平成20年度から2年間で、小学校で30人程度の学級編制が可能となるよう、教員の配置を充実します。

次の3つから市町村教育委員会が選択します。

1. 少人数授業
子どもの興味・関心や習熟の程度に応じて、国語や算数・数学などで学級の枠を超えた少人数グループで指導
2. ティームティーチング
1学級を2人の教員が指導
3. 少人数学級
40人を下回る人数による学級編制

小学校
1年
2年
3年
4年
5年
6年

継続

小学校低学年指導充実

小学校1・2年生で2人の教員による指導を実施
※30人を超える学級への配置を基本とします。

継続

全中学1年生英数少人数教育実施

中学校1年生における英語・数学の基礎学力の定着を図ります。
※30人を超える学級に配置します。

集まれ 未来の教員サポート事業

優秀な教員を確保するため、教員志望者を対象とした教員としての実践力を養成する総合的かつ体系的なプログラムを実施します。

教員養成サポートセミナー

- 募集：100名程度
- 期間：毎年6月～翌年1月
- 受講資格：教員志望者で、府教委と協定を結ぶ大学の3回生(または4回生、短大2回生)
- 現場におけるインターンシップ

学生ボランティア

- 500名程度
- 期間：通年
- 対象：教員志望の大学生、短期大学生

教師力養成講座

- 募集：50名程度
- 期間：毎年2月～6月
- 受講資格：京都府公立小学校の教員志望者で、
①府教委と協定を結ぶ大学の3回生(または大学院1回生)で大学の推薦を受けた者
②教員養成サポートセミナー修了者または学生ボランティア経験者

- 教師力養成講座
専任指導教官の指導のもとに個別実務研修
○学校現場での週1回の演習

講座修了
1次試験免除
教員採用選考試験

宇治・城陽地区新設特別支援学校

- ☆ 京都府の特別支援教育の拠点校として整備
- ☆ 地域のノーマライゼーション推進に貢献
- ☆ 多様な障害に対応するとともに、専門性の高い研究・研修・相談機能

京都府では、平成22年4月の八幡・久御山地区特別支援学校に続き、23年4月には宇治・城陽地区に特別支援学校を開校する計画にしています。
この学校は、京都府の特別支援教育の拠点校として位置付けており、宇治市の市街地に開校という立地条件を生かして、地域のノーマライゼーションを推進するとともに、府全域の特別支援教育を牽引する専門性の高い学校として整備することにしています。

《拠点機能》

校内に京都府スーパーサポートセンター(仮称)を整備
～特別支援教育の研究・研修・相談機能の充実～

地域支援センターの設置
宇治・城陽地区の特別支援教育の相談体制を整備

府南部視覚・聴覚支援センター(仮称)の設置
府南部地域の視覚・聴覚障害のある子どもの就学前からの相談に対応

教職員の研究・研修の支援
特別支援学校の授業を活用した実地研修などの充実

専門家チームの事務局の設置
医療・心理・福祉など専門スタッフによる府内一円の教育相談スーパーバイス機能の充実